

WISPA Mid Atlantic Broadband Summit 要旨

6月18日開催。ブロードバンドおよびインターネットサービスを配信するISPを広範にカバーする業界団体であるWISPAが主催するイベントで、バージニア州・近隣州のISPや業界パートナー、政策立案者150人ほどが参加。

州政府、連邦政府、いずれからもBEADプログラムにかかるプレゼンが設けられたが、連邦政府からの補助金を州政府がいかに獲得し活用していくのか等、聴取の反応は州政府に集中していた。

また、インフラの100%普及についての議論では、光ファイバーとその他ワイヤレス等の技術の両方をうまく活用する必要があること、光ファイバーの敷設にはコストと時間を要するため、まずはワイヤレスによるブロードバンドの提供からスタートし、その後光ファイバーに転換する方策も有益との発言があった。

元FCC委員候補のジジ・ソーン氏からは、ネット中立性規制について2015年の内容を復活するだけでは不足しており、現在の市場環境に応じた規制検討が必要と問題提起がなされた。また、ネット中立性に限らず、政権変更のたびに方針が右往左往するFCCの状況は好ましくない、議会がきちんと立法すべきではとの意見も出された。



WISPA Mid Atlantic Broadband Summit 報告

中央大学 実積寿也

WISPAとは

- WISPAは当初、Wireless Internet Service Provider Association Inc.として2004年設立。無線ISP 業界の発展、進歩、統合を促進するために業界団体として始まったが、現在では正式名称をThe Association for Broadband Without Boundariesと変更し「ワイヤレス、光ファイバー、またはその他のテクノロジーを利用してブロードバンドまたは関連するインターネットサービスを配信するISP」を広範にカバーする業界団体として活動
- 地方の中小事業者のための団体
- Mid Atlantic Broadband Summit
 - 固定無線とハイブリッド ファイバー無線の両方の分野で事業を展開する地元のインターネット サービス プロバイダー、最新の機器を提供するテクノロジー ベンダー、州および地域全体でブロードバンド拡張プログラムをサポートしている政策立案者が参加。
 - 開催日時： 2024年6月18日
 - 開催場所： Richmond Marriott（ヴァージニア州リッチモンド）
 - 参加者数： 150人程度



セッション 1

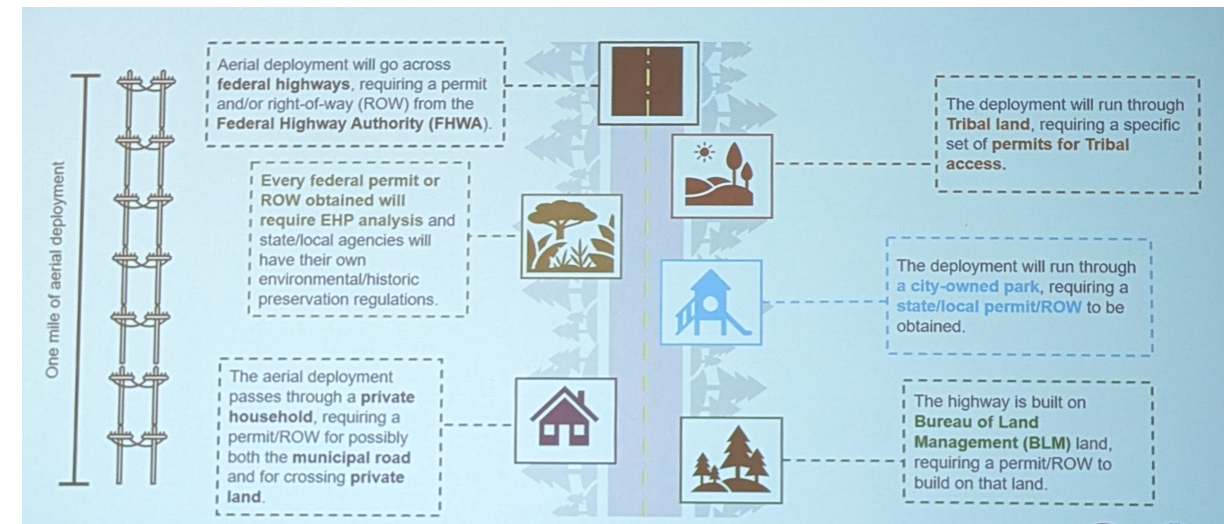
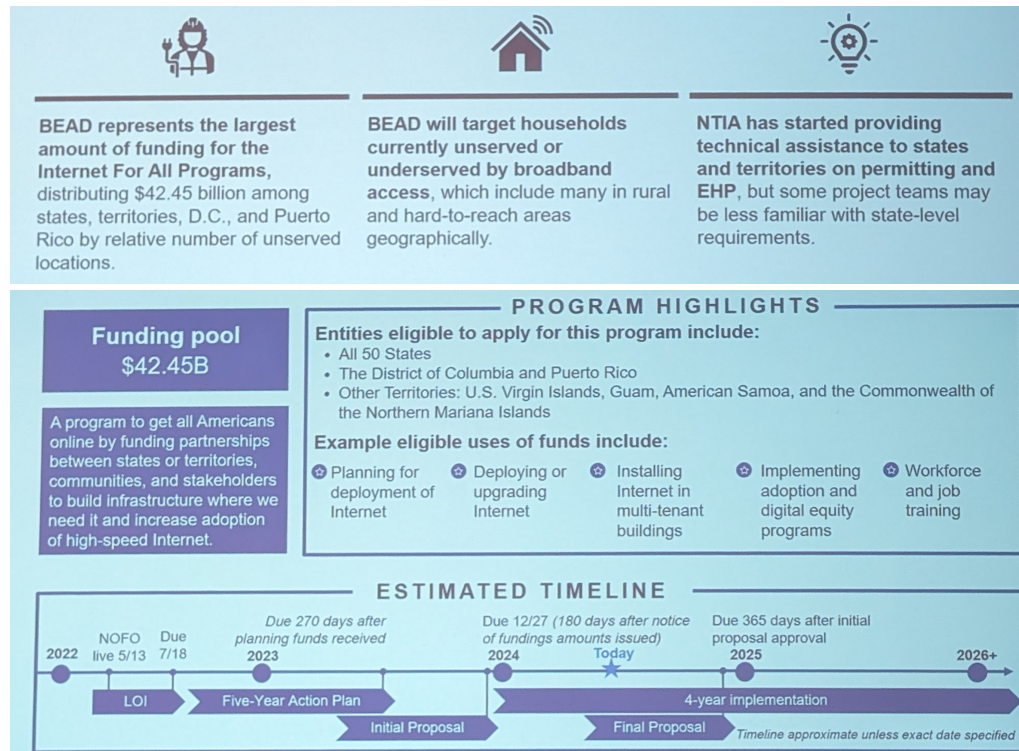
- State BEAD Plans
 - Tamarah Holmes, Ph.D. (Director, Virginia Office of Broadband)
 - Bryan Horn (Director, Virginia Department of Housing and Community Development)
 - Chandler Vaughan (Senior Policy Analyst, Virginia Office of Broadband)
- BEAD申請に関する州政府へのプロセスについて解説
- ブロードバンド敷設に関する州内の現状に関する情報提供
- 主な発言
 - 州政府はブローバンドのcoverageのみならずutilizationにも注目し、デジタルリテラシー改善にも尽力
 - なお、BEAD資金の一部はnon allocation用として、リテラシー改善や労働者訓練に支出可能
 - BEADは連邦プログラムの常として難解であるため、州政府としてウェビナーやワークショップを開催
 - BEADはFTTH重視のプログラムであるが、ワイヤレス事業者にも興味をもってもらいたい
 - 現在の州政府の優先事項はdigital gapの解消

セッション2

- Getting to 100%—Using All Technologies to Reach Universal Service
 - Moderator: Steven Schwerbel (State Advocacy Manager, WISPA)
 - Charles Thomas (Chief Strategy Officer, Rural Broadband Partners)
 - Benton Cook (Strategic Account Manager, Winncom)
 - Richard P. Biby (CEO, Two-Hops Wireless LLC)
- 主な発言
 - FTTHを含むあらゆる技術を使わないと100% coverageを達成できない
 - Density is important for fiber.
 - その意味でFTTHとそれ以外の技術は補完的。Fixed Wirelessであれば品質的にも十分
 - ただし、BEAD以降の将来の展開余地を考えるとFiberは必須
 - Fiber敷設にはコストと時間がかかる
 - ワイヤレスを使うことでブロードバンドの提供開始を加速できる。
 - まずはブロードバンドを提供しておいて、その後、設備をFTTHに転換するという方策も有益
 - ただし、どういう技術を採用しようとも、コアネットワーク部分まで考えればfiberは不可欠の一部
 - 物理インフラを作るコストは固定費。そこに複数の技術を乗せる効率性を改善できる。

セッション3 & 4

- How to Prepare for BEAD Requirements
 - Jill Springer (Senior Policy Advisor and Chief Environmental Review and Permitting Officer, NTIA)
 - Chris Bolling (NTIA Southeastern Regional Director)
- 連邦政府（NTIA）によるBEADプログラムにかかる諸手続きのプレゼン
 - NTIAは数多くのブロードバンド補助金を出しているがBEADの\$42.45Bは他を圧して巨額
 - 敷設にあたっては必要な各種手続き



セッション5

- “Office Hours”—Facilitated conversations with
 - Chandler Vaughan (Senior Policy Analyst, Virginia Office of Broadband)
 - Caroline Luxhoj (Program Manager, Virginia Telecommunication Initiative)
- 州政府によるプレゼン
 - BEAD申請・審査手続きについての解説。
 - 申請プロジェクトの得点配分について紹介
 - The term “Priority Broadband Project” means a project that will provision service via end-to-end fiber-optic facilities to each end-user premises
 - 光ファイバ以外のNon-priorityプロジェクトはPriorityプロジェクトではどうしてもカバーできない時に限って選定される。
- 主な発言
 - 現在、示されている金額は予算ではなく予定額。
 - 100%カバーするまで予算はつく
 - 得点は提案書の内容で。提案書の内容は契約で縛る。遵守しない場合は資金供与停止も考慮

Priority Application Scoring Criteria	
Minimal BEAD Program Outlay (Cost-Efficiency)	45%
Affordability	20%
Fair Labor Practices	10.2%
Speed to Deployment	5%
Universality of Applications	9.9%
Local and Tribal Coordination – Letter of Support	9.9%

Non-Priority Application Scoring Criteria	
Minimal BEAD Program Outlay (Cost-Efficiency)	45%
Affordability	20%
Fair Labor Practices	10.2%
Speed to Deployment	2.5%
Speed of Network & Other Technical Capabilities	2.5%
Universality of Applications	9.9%
Local and Tribal Coordination – Letter of Support	9.9%

セッション 6

- Fireside Chat: Gigi Sohn in conversation with David Zumwalt
- 主な発言
 - 周波数の活用はライセンスとライセンスフリーの組み合わせで考慮することが最適
 - ACPが中断された分については、ユニバーサルサービス（Lifeline program）の対象拡大でカバーすべき
 - USFの資金不足についてはBIASなどにも協力させるべきであったが、現FCCは腰が引けている。
 - また、州政府による補完にも期待がもてる。
 - BEADのnon deployment fundを活用することは可能かもしれない
 - デジタルギャップを解消するためには州政府を含む様々なプレイヤーが参加する必要がある。
 - 特に、BEADは大企業に限定させるべきではない。
 - 中小企業や少数民族・女性が運営する企業への門戸を広げることが必要
 - BEADの\$ 42.5Bは巨額ではあるが目的達成には明らかに不足
 - ネット中立性規制については2015年にやったことを復活させるだけでは不足
 - インターネットで9年という時間は「永遠」と同義
 - 政権変更のたびに右往左往するFCCの状況はネット中立性に限らず、オークション権限でも同様
 - 議会がちゃんと立法すべき。そうすれば最高裁で決める必要もなくなる
 - BEADにおいてFiberのみを重視するのは最適とはいえない。
 - 連邦レベルの方針としては首肯できるが、州政府の段階では柔軟性を認められて然るべし
 - その意味でNTIAはもうちょっとlighter touchの方がよかったと思う

所感

- WISPAは中小ISPや関連事業者の業界団体であり、通信市場が大企業によって寡占化されないように様々な方面で意見を表明している。
 - オークションブロックを小さくすることで中小企業による入札を可能にしたのが一例
- 連邦政府からの千載一遇の補助金を確実に獲得しようとする州の努力は凄まじい。
 - 州の通信政策の目標達成に連邦政府の資金が使えるのであれば有難いということか
 - 大統領選挙の結果が最大の不確定要素であることは間違いない
 - そのため、聴衆の反応は州政府に集中。連邦政府へのプレゼンにはあまり反応せず。
- ACPの欠落をUSFで埋めるべしというGigi Sohn氏の発言は現在の米国では実現困難であろうと思われるが、政策論としてはありうる。
 - USFへの資金拠出をBIASにも求めるべしという提案には同意。彼らが拠出側に回らないとシステムが維持できない可能性が高い。
- ネット中立性規制について2015年規制を復活させること自体で満足するべきではなく、今日の市場環境に応じた規制を考えるべきというGigi Sohn氏の発言は原則論としては当を得ている。